



# 異年齢での生活を通して育む社会性

大人になって社会に出ると、同じ年齢の集まりだけではなくなります。幼児期において異年齢児との関わりを多く持つことで、社会性への育みにつながります。

### 遊び面



どうやるのかなあ？



遊びを通して、ルールや順番、お兄さん・お姉さんに教えてもらう事で自分では知りえなかった遊びの展開を経験することができます。

### 異年齢での保育者の役割

- 年齢ごとの育ちを促す玩具や遊びの環境を構成する。
- 子どもが手伝ってくれたことに対して、頑張った過程を認める。それにより「自分は必要とされている」という充足感を味わえるような関わりをする。
- 子ども同士の気持ちのぶつかり合いになった時に、保育者が解決できる方法へと導く。

### 生活面



ちゃんと靴下はけてるかな？



生活を通して、年長・年中児は、年下の子をいたわり、年少児はその刺激を受けることで期待感を持ちます。



おはよう！ トイレにいこうね

積み木で一緒に遊ぼう！



給食はじまりますよ



はあーい！



### 幼児クラスでの子ども社会

3歳児みかん組は、友だちと遊ぶ楽しさを感じていく年齢です。友だち同士で遊ぶのが楽しいけれど、自分の思いを押し通してぶつかりあう姿も増えてきます。しかし、この経験があるからこそ、友だちの存在に気づいたり、コミュニケーションの土台となります。

4歳児ばな組は、友だちとの繋がりが深まり、遊びを展開していきます。その中で、意見や思いを伝えながら、自分の気持ちと相手の気持ちを調節する葛藤も見られます。

みかん組、ばな組にとって5歳児ぶどう組は、憧れであり「はやくぶどう組になりたい!」という想いでいっぱいです。そして生活を通して責任感や見守る姿、自分の気持ちをコントロールする力や思いやり、社会性や協調性を学びながら異年齢という小さな社会で日々成長していきます。

リーダーは、みかん組の食事を運びます。

